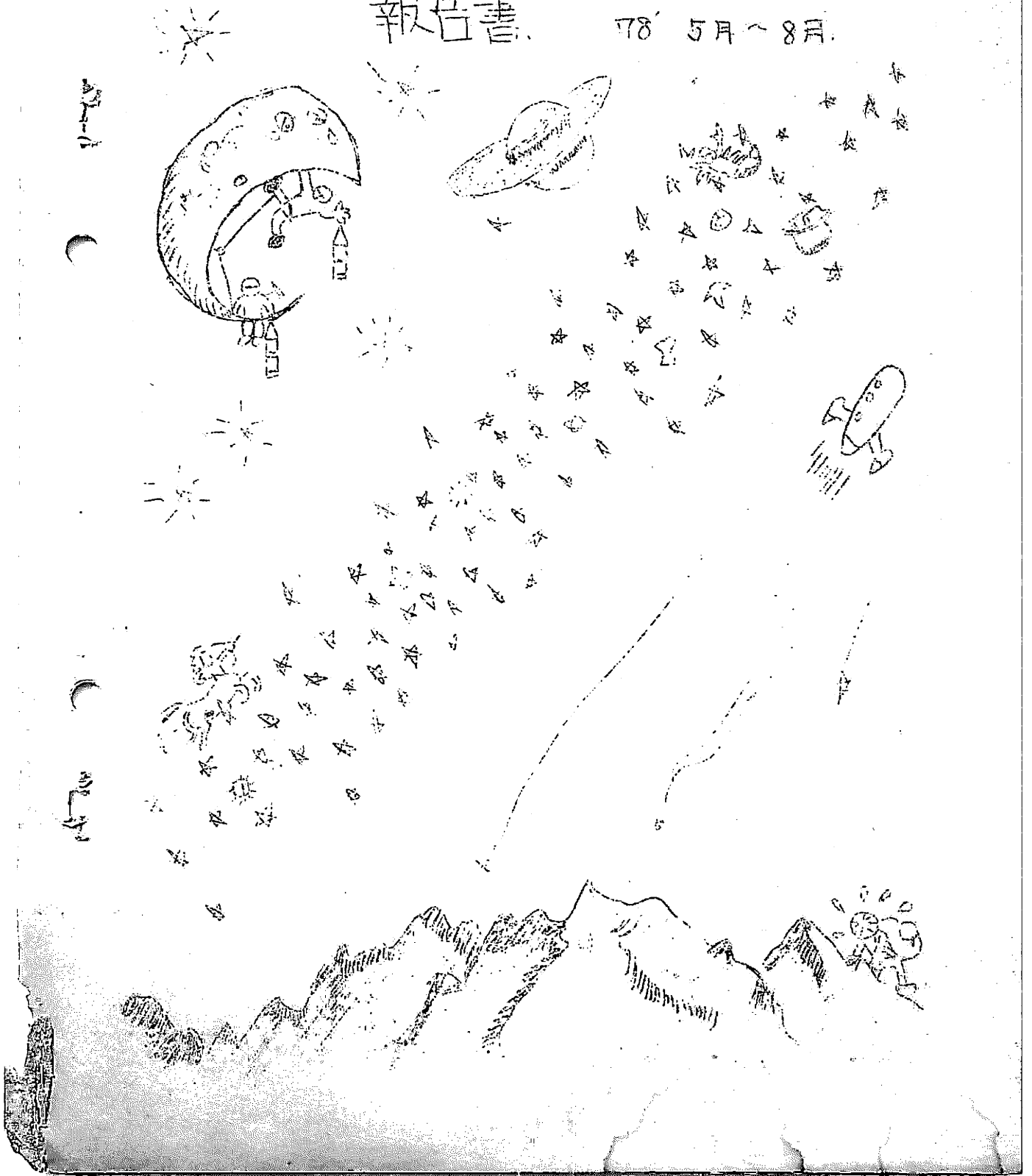


信州大学山岳会土田延野山岳部

報告書

78' 5月~8月



～ちくじ～

- 5月 明屋山岩登り  
不備急合宿
- 6月 唐沢岳幕岩岩登り  
屏風岩岩登り
- 7月 溪谷めぐり縦走  
黒部別山溪谷を攀  
詰り中等山岩登り
- 8月 S.Tおりの山行  
唐沢岳幕岩岩登り  
奥鐘山西壁岩登り  
剣岳岩場定着合宿

## 明星山の単独行 山本尊(教員)

4月29日～30日 B-4ルンゼ状壁, P6 東縁

1日目 ②→① 長野 ~~山~~ 小滝 — ヒスイ岫

またな山下宿の朝が来た。今日から山だと言うのに外はひどい雨、昔ほどはたさ  
あさり山行などやめて、キツサ店でも行くのだが、初めての単独登攀は絶対成功  
させようと言う気持ちがあった。どうしようおけが、電車~~車~~に乗り込む、

一人だとやる事<sup>の</sup>がなく、つりべ<sup>り</sup>ールなどに手がでくまう。金もな~~い~~のにね、

ともかく小滝に上りて歩き出す。雨もやんで、例によって例のごとく明星山が  
見え出す。岩壁が相変わらずの迫力でせま<sup>つ</sup>てくるのを横壁目にて、送水管

をつた<sup>つ</sup>て小滝川をあたり、ちよつとした平地でピバーク

朝ゆつくりおきたせ<sup>り</sup>が、全然おむくなり<sup>が</sup>と言って金事かすおと  
やる事もなく夜をおそくまで、モンモンとしてすぞす。

2日目 ①-①

B.S - 西面 - P6 - 右ルンゼ下降 - 南縁のロード - 4ルンゼ状壁  
- P6 東縁 - 西面下降 - 小滝 - 長野

小滝川は増水して、とても東壁ルンゼには、取付けな<sup>ら</sup>ぬで、予定通り、

西面を登る。P6あたりまでくるとだ<sup>い</sup>ぶ暑くな<sup>つ</sup>て来る。さすが低山である。

右ルンゼは東縁と南山縁との間の小雪渓を下る。途中から小ルンゼ

（リ）アップザイルン1回で右ルンゼにおり立つ。右ルンゼは雪のフロンク

が死<sup>つ</sup>つて<sup>い</sup>て<sup>い</sup>や<sup>ら</sup>しく<sup>い</sup>い。2回程アップザイルンをし、落石におお<sup>ろ</sup>る様に

南縁のゴルに出る。ここで登る予定の基<sup>本</sup>稜をみるとえ<sup>ん</sup>く<sup>く</sup>達<sup>し</sup>。す<sup>か</sup>り

意欲をなくして、P6東縁だけにし<sup>よ</sup>うと思<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>昼寝をして<sup>い</sup>ると、

下から6人程人が登<sup>つ</sup>て来た。小滝川は40リ<sup>ア</sup>ブリッジであ<sup>つ</sup>て、東壁ルンゼ  
に入ったとの事、それにしても最初の人はどうやってあ<sup>つ</sup>た<sup>の</sup>だ<sup>ら</sup>う<sup>?</sup>

それはともかく、ポンプ<sup>リ</sup>とP6フランク<sup>も</sup>も<sup>い</sup>く<sup>の</sup>か<sup>と</sup>、見て<sup>い</sup>ると、なんと全員が  
B6東縁に取<sup>付</sup>け<sup>し</sup>て<sup>し</sup>ま<sup>つ</sup>た<sup>の</sup>は<sup>な</sup>ら<sup>な</sup>か<sup>ら</sup>。どうせ僕はザイル<sup>な</sup>ど<sup>使</sup>う<sup>気</sup>は  
な<sup>か</sup>つ<sup>た</sup>か<sup>ら</sup>、すぐ<sup>知</sup>り<sup>く</sup>のは<sup>目</sup>に<sup>見</sup>え<sup>て</sup>い<sup>る</sup>。

がわかり、また屋根<sup>を</sup>はいる。しばらくして見ても、取付に毒人たまる(こ)る。

11-1なたっ登るが判らな(こ)るので、しめたなく1-2に(こ)行く事にした。

サイ1本とか什類だけ(こ)て取付に向かう。(は)らく休んで<sup>慎重</sup>に登り出す。やさしいとは言え、不審保存(こ)たので、おちれば死ぬ、というわけだ。  
~~慎重に登り出す~~。自然に手に力が入る。やはり2人で登る時は大部<sup>と</sup>私(こ)造る、途中(こ)う牛級のワラフを登ろうと思(こ)たが、どこ(こ)に不判(こ)らな(こ)ので、きどうにおま(こ)し(こ)うな所(こ)で登る。も(こ)くて少(こ)しい(こ)や(こ)ら(こ)しい(こ)戸(こ)が(こ)あ(こ)った(こ)が、た(こ)いて(こ)不(こ)審(こ)保(こ)存(こ)な(こ)として(こ)な(こ)るので、と(こ)り(こ)中(こ)の(こ)り(こ)登(こ)って(こ)き(こ)や(こ)り(こ)早(こ)い(こ)。

取付(こ)る(こ)20分(こ)で(こ)荷(こ)棧(こ)に(こ)で(こ)る。後は2級程度のま(こ)れ(こ)る(こ)た(こ)さ(こ)う(こ)な(こ)岩(こ)稜(こ)が(こ)つ(こ)ら(こ)な(こ)り(こ)な(こ)ら(こ)せ(こ)た(こ)して、1回(こ)の(こ)ア(こ)フ(こ)サイ(こ)ン(こ)と(こ)ク(こ)ラ(こ)イ(こ)ニ(こ)ン(こ)ダ(こ)ウ(こ)ン(こ)で(こ)荷(こ)棧(こ)の(こ)下(こ)に(こ)下(こ)り(こ)荷(こ)棧(こ)の(こ)2(こ)に(こ)も(こ)ど(こ)つ(こ)た(こ)。

ここでまた(こ)変(こ)換(こ)の(こ)方(こ)き(こ)見(こ)ると、ヤ(こ)ッ(こ)最(こ)後(こ)の(こ)パ(こ)ー(こ)ティ(こ)が(こ)真(こ)中(こ)の(こ)た(こ)り(こ)と(こ)登(こ)って(こ)い(こ)る(こ)所(こ)だ(こ)。

が(こ)わ(こ)かり(こ)し(こ)ま(こ)つ(こ)た(こ)が、(こ)れ(こ)だ(こ)また(こ)私(こ)た(こ)ん(こ)に(こ)違(こ)い(こ)つ(こ)き(こ)う(こ)な(こ)ので、

行(こ)う(こ)な(こ)ら(こ)う(こ)ま(こ)。(こ)は(こ)ら(こ)く(こ)して(こ)ヤ(こ)と(こ)核(こ)心(こ)部(こ)を(こ)か(こ)け(こ)た(こ)標(こ)本(こ)の(こ)で、

取(こ)付(こ)に(こ)こ(こ)に(こ)して(こ)荷(こ)物(こ)を(こ)ま(こ)と(こ)め(こ)右(こ)に(こ)こ(こ)に(こ)ま(こ)り(こ)る(こ)荷(こ)棧(こ)の(こ)2(こ)に(こ)こ(こ)る(こ)取(こ)付(こ)ま(こ)で、

は(こ)か(こ)ら(こ)な(こ)ら(こ)う(こ)な(こ)り。1-サイ(こ)ル(こ)で(こ)登(こ)り(こ)は(こ)じ(こ)め(こ)る(こ)。

ど(こ)ん(こ)ど(こ)ん(こ)人(こ)登(こ)っ(こ)て(こ)ま(こ)と(こ)う(こ)同(こ)に(こ)核(こ)心(こ)の(こ)四(こ)角(こ)の(こ)下(こ)に(こ)つ(こ)く、

先(こ)行(こ)パ(こ)ー(こ)ティ(こ)は(こ)ア(こ)フ(こ)サイ(こ)ン(こ)で(こ)登(こ)り(こ)は(こ)じ(こ)め(こ)る(こ)。

ど(こ)ん(こ)ど(こ)ん(こ)人(こ)登(こ)っ(こ)て(こ)ま(こ)と(こ)う(こ)同(こ)に(こ)核(こ)心(こ)の(こ)四(こ)角(こ)の(こ)下(こ)に(こ)つ(こ)く、

先(こ)行(こ)パ(こ)ー(こ)ティ(こ)は(こ)ア(こ)フ(こ)サイ(こ)ン(こ)で(こ)登(こ)り(こ)は(こ)じ(こ)め(こ)る(こ)。

ど(こ)ん(こ)ど(こ)ん(こ)人(こ)登(こ)っ(こ)て(こ)ま(こ)と(こ)う(こ)同(こ)に(こ)核(こ)心(こ)の(こ)四(こ)角(こ)の(こ)下(こ)に(こ)つ(こ)く、

先(こ)行(こ)パ(こ)ー(こ)ティ(こ)は(こ)ア(こ)フ(こ)サイ(こ)ン(こ)で(こ)登(こ)り(こ)は(こ)じ(こ)め(こ)る(こ)。

ど(こ)ん(こ)ど(こ)ん(こ)人(こ)登(こ)っ(こ)て(こ)ま(こ)と(こ)う(こ)同(こ)に(こ)核(こ)心(こ)の(こ)四(こ)角(こ)の(こ)下(こ)に(こ)つ(こ)く、

先(こ)行(こ)パ(こ)ー(こ)ティ(こ)は(こ)ア(こ)フ(こ)サイ(こ)ン(こ)で(こ)登(こ)り(こ)は(こ)じ(こ)め(こ)る(こ)。

ど(こ)ん(こ)ど(こ)ん(こ)人(こ)登(こ)っ(こ)て(こ)ま(こ)と(こ)う(こ)同(こ)に(こ)核(こ)心(こ)の(こ)四(こ)角(こ)の(こ)下(こ)に(こ)つ(こ)く、

先(こ)行(こ)パ(こ)ー(こ)ティ(こ)は(こ)ア(こ)フ(こ)サイ(こ)ン(こ)で(こ)登(こ)り(こ)は(こ)じ(こ)め(こ)る(こ)。

ど(こ)ん(こ)ど(こ)ん(こ)人(こ)登(こ)っ(こ)て(こ)ま(こ)と(こ)う(こ)同(こ)に(こ)核(こ)心(こ)の(こ)四(こ)角(こ)の(こ)下(こ)に(こ)つ(こ)く、

先(こ)行(こ)パ(こ)ー(こ)ティ(こ)は(こ)ア(こ)フ(こ)サイ(こ)ン(こ)で(こ)登(こ)り(こ)は(こ)じ(こ)め(こ)る(こ)。

ど(こ)ん(こ)ど(こ)ん(こ)人(こ)登(こ)っ(こ)て(こ)ま(こ)と(こ)う(こ)同(こ)に(こ)核(こ)心(こ)の(こ)四(こ)角(こ)の(こ)下(こ)に(こ)つ(こ)く、

先(こ)行(こ)パ(こ)ー(こ)ティ(こ)は(こ)ア(こ)フ(こ)サイ(こ)ン(こ)で(こ)登(こ)り(こ)は(こ)じ(こ)め(こ)る(こ)。

# 不帰岳東面定着合宿

534月29日 ~ 5月6日

○1日目 長野発◎

5:50 白馬発◎

途中2P羊  
12:20 暮営地着

2時頃 伊松パーラー到着

雨の中での行動はイヤなものです。  
貯水池の手前で暮営

○2日目 ◎→①  
4:10 起床

5:30 出発

川の状況は良く、又途中の滝も左に残雪があり、楽に通過出来た。滝を過ぎて右に大きくカーブする右岸の斜面で雪上訓練とスタカート練習。その後先の左より入る沢筋から尾根に取り付いて不帰岳東面の偵察。後はツリセードで下る。

13:20 暮営地着

○3日目  
〈阪大ルートパーラー〉 Lセト、山田  
○ 下界◎

3:30 起床

4:50 発

途中昨日の雪上訓練の場所でコンテの練習。

1P目の後I峰左綾パーラーとわかる。

9:10 A/Lンゼ末端着

コンテで取付くが、雪崩が1分おき位に発生し、ラビーネットク

白粉より2P登った所で、雪止。田中、シャパー、モリツジま  
 でで登攀中止。雪の状態が非常に悪し。後アプサイズで  
 降りる。ツリセードで下り。I峰尾根ルンゼ末端でニ俣  
 カンに合ひ、敗退したとのこと。

12:30 BC着①

<I峰左稜パーティー> L中嶋, 吉野

3:30 起床

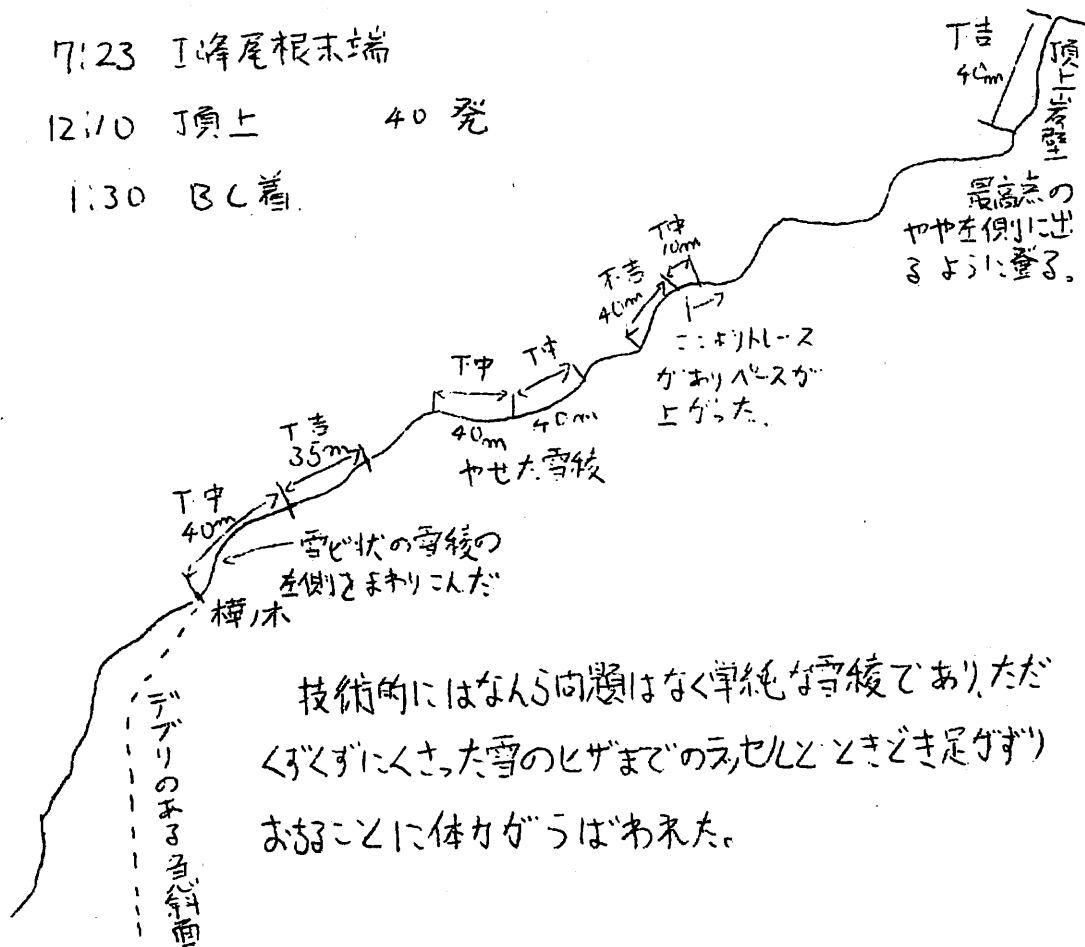
4:50 出発

5:30 南滝上部の広場 1時間ほどコンテの訓練

7:23 I峰尾根末端

12:10 頂上 40 発

1:30 BC着



技術的にはなんら問題はなく単純な雪稜でありただ  
 くびくびにくさった雪のヒザまでのスレしとときどき足がずり  
 おちることに体力がうはあれた。

○ 4日目 ナンデッソ

午前中に吉野帰る。

○ 5日目

瀬戸サンは午前中に帰る。中嶋サンがかせのため、伊松と伴に杓子等に出かける。

5:25 発①

10:50 天狗山荘

6:10 滝少し上

12:20 不帰沢コル

8:20 杓子ビーク前

ツリセード途中伊松コルテ

9:25 ビーフ 風強ッ

練習

15:10 BC着

9:50 鏡屋

竹内サン、山本サン来る。

○ 6日目 ナンデッソ

○ 7日目

<西峰A尾根パーラー> L.山本, 山田

3:30 起床

5:00 出発①

8:40 取付

12:00 終了

12:30 ムルンゼコルテ

渡辺サンと合ふ

14:40 BC着

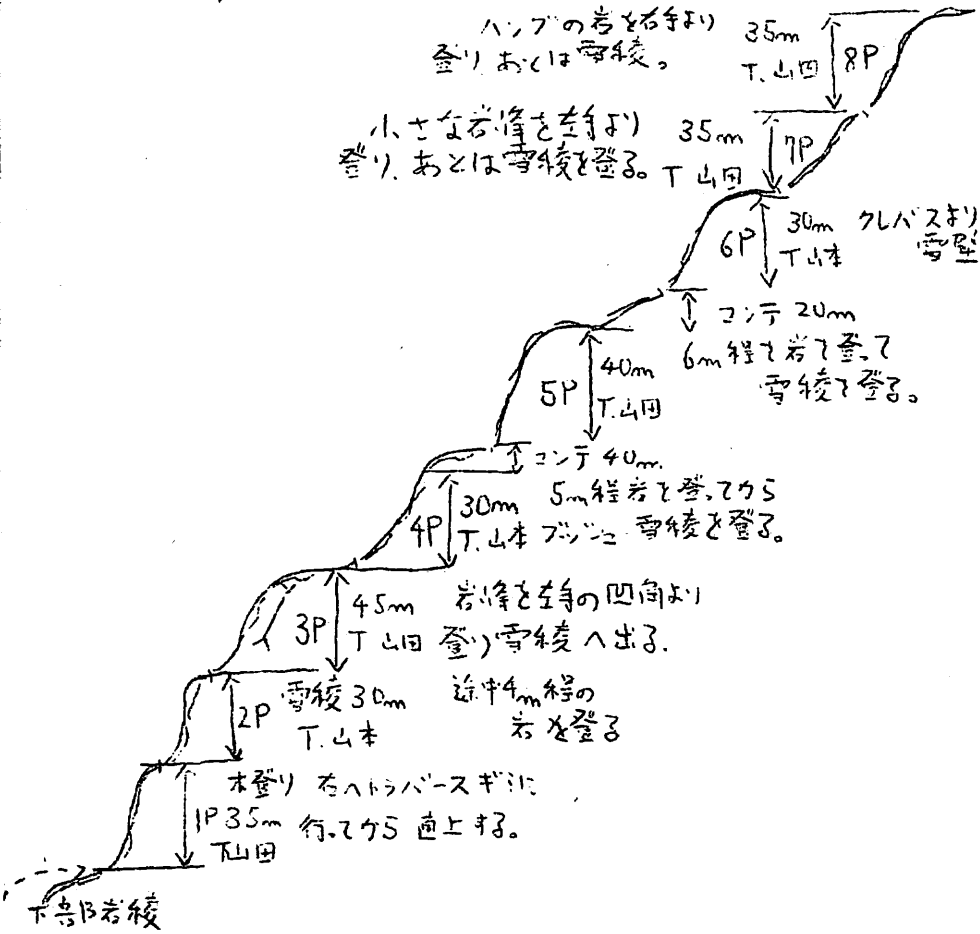
先行パーラーがあり待たせられた。最終ビークではアブミを残り置いて行ってしまう。僕がもらって来た。それほどむずかしくなく快適でした。

○ 8日目 ②

6:00 発

7:50 白馬駅着

三峰B尾根





# 唐沢赤幕岩 中央カンテ島山ルート

シ. 片山博孝 中嶋岳志 S. 53. 5. 19~21

1日目 ⑧ 朝から雨がふっている。ぬるい目をこすりながら、それでも二人とも「やめよう」などと一言も言わず、忍誠峰を出發する。今にして思えば、この雨があの恐ろしい出発事の原因だったのだ。くず温泉まで交通機関を利用し、大分小ぶりになった雨の中をハイペースで歩き、大町の宿へはいる。唐沢は金時の大滝より上流は雪が残っている。大町の宿ではKFLC京都の伊藤君に会い、滝と行った幕岩を見上げて時を過ごす。

2日目 ⑨ 4時過ぎに起き出し、朝食をとって島山ルートへ向う。B沢の上の台地にGDC島山氏のレリーフがあり、取付はその左下だが、我々は、「レリーフが右上にある。」を「右下にある。」とまちがえて、3級の岩場をノーザイルでのぼり、ルートの上ピッチ目よりとりつく。

取付 6:00

1P目 じゃんけんに勝った片山がトップで登りはじめる。ルンゼ状に落ちた所のバンドを右へトラバースして、ルンゼの対岸にたどり、取付を左上して、小ハングの下まで25m。

2P目 ツルベと中嶋がトップにたどり、小ハングを人工でこえ、取付の凹角からスラブを登り、ルンゼの中へもどって、ボルトのある小テラスまで20m。ここは大バンドの左端に落ちている。

3P目 テラス上のフェースを右からまわり込み、バンドを左へトラバースしてから人工でカンテ状のハングをこえ、ボルト連打のフェースを直上。1mのハングをこえ、流水溝下のボルトテラスまで40m。ピンの間隔短い。

4P目 木のしたたる流水溝を登り、石に出て、スラブを右上40mでボルトのあるスベリ台テラスへ。ピレー用にハーケン2本打つ。

5P目 スラブを少し登り、そこから左へトラバースし、取付の凹角15m

から、すばらしいスラブの中の凹角へ、40mで三口テラスへつく。

6P目 スラブを左へトラバースし、草付を左上。カンテ状を人工でこえ、スラブから厚付30mで第2スラブ下の洞穴までハーケン打、ピレ。

7P目 スラブと草付のコンタクトラインを右上してから快適な第2スラブを登り、40mでハーケンを打つピレ。そこから10mで大広間テラス。大広間テラスで一息ついてしばらく休息。 11:00

8P目 スラブを左へし、凹角にはいり、さらに草付を登って40mで樺木テラス。

9P目 テラスの上の木登りからフレーククラックのレイバック。人工で木にはいり、樺木帯を登る。30m

10P目 凹角の右壁の人工より凹角を左のハンクをこえ、せまいチムニーから草付凹角20mでテラス。

11P目 カンテを2つ左へトラバースして、凹角からフェースポルト。ハーケン連打にみちびかれて直上。もろいスラブを登り40mで小ハンク下のレンジへ。ハーケン打つピレ。

12P目 小ハンクを人工でこえ、スラブからブッシュ25mで大きなテラスへ。

13P目 テラスの左端よりブッシュを登り、ハンク下を右へまわりこんで、凹角からチムニー。ピレ一帯にハーケン1本打つ。チムニーの出口に、くまの木のクサビ2本あり。40mでカンテの頂へ。

14P目 スラブからブッシュ帯。40mで。

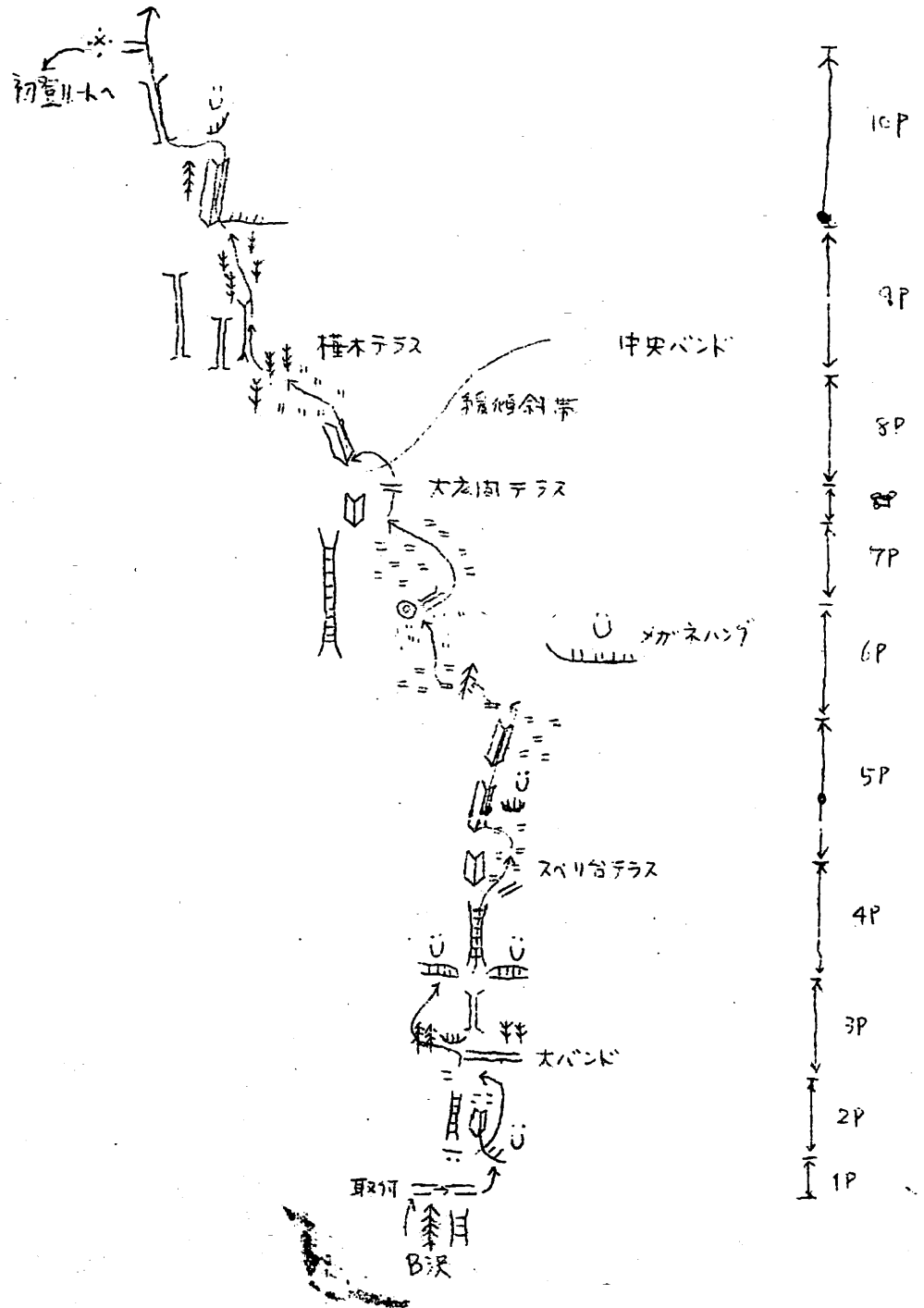
登山終了 15:20

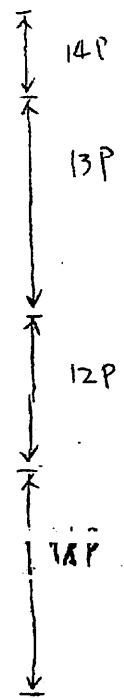
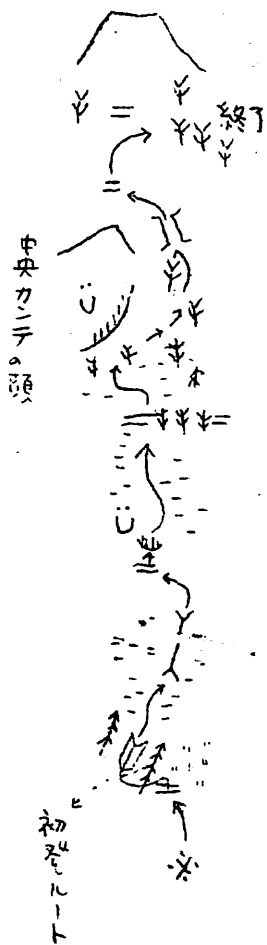
コンテでスラブとガレとブッシュを右へトラバースし、すさまじい「割木帯」にはいる。そこを少し下。こから、西登ルンゼ上部におり、対岸を下って、右袂の頭にとどる。右袂を下降し、大町の宿へもどる。 17:40

2時ごろ、大きな「岩のくずれる音」が目とまます。ツェルトから顔を出してみると氷場のまじりがうがうとくずれている。大したことはないと安心する。ところが次の瞬間、その十倍もの音と地震きとともに、大きな崩壊

がおこり、岩小屋からハダシのまま飛び出して、稜の上の岩まどにげ  
 る。それからしばらく土砂崩れがつづき、二人してふるえていた。こ  
 の時の様子は大町の宿の宿帳にくわしい。

あかるくふるのをまて、すぐ下山する。





# 屏風岩東壁 大スラブルート

7月21日 L. 片山 中嶋

① → ② → ③

ST. 4:00 取付 7:30 終了 19:00

STを早朝に出発し、横尾よりルンゼ押出をつめて取付に向かう。ルンゼ下部にはまだ大きな雪残が残っている。T4尾根にはすでに2パーティーが取付いている。屏風岩には何度も来ている片山が「もうT4尾根には行く気がしなな」と言うので、横断バンドまではテイトイツシマルートを登ることにして、ルンゼをつめる。大きなシュルトで岩にうっめす、少し下がらシエルトの下へおりて、気持の悪い思いを以て登ってゆくとスラブと雪に行く手をうさがれ、取付点より下でアンザイルンする。片山トップで登り始める。

1 P目. スラブから、岩と雪の4m = 30mで取付のテラスへ

2 P目. ツルベ式にザイルをのぼす。ゴミのつまったもろい凹角に登り、フェイスへ出てビレー 35m

3 " 5mのフリーからボルト連打のフェイス 35m

4 " ボルト連打のフェイス 40m

5 " フリー 5mで横断バンドへ、左へ15mのトラバースで大スラブルートへはいる。

6 " 13 P目 大スラブルートを登る。

14 " 左へ10mのトラバースしてボルトの打たれたフェイスからフレッシュ帯へつっこむ。40mで大きなテラス。雨が本降りになり少々やばくなったので、スタカットで登ることにする。

15 " もろい草付ルンゼ 35m

16 " " 20mから草付カ>テ 40mで終了

15mもコンテで登ると稜線に出た。トハン貝をしまし、はじめて行動食を食べる。思えば朝食も徳沢でムスビを食べたきり、何も食べずに登ってしまった。STにキーパーがいないので、ゆっくりすることできません。早々に下山する。

中嶋